

The Coca-Cola Educational & Environmental Foundation

Activity Report 2013

事業活動報告書



公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

ごあいさつ

次世代を担う人材の育成を目指して

当財団は2007年6月、「心豊かでたくましい人づくり (Healthy Active Life)」を理念とし、コカ・コーラが国内で事業を開始して50周年を迎えることを契機に、財団法人日本コカ・コーラボトラーズ育英会とコカ・コーラ環境教育財団を統合し、多様な社会貢献活動を一元的に運営、推進できる母体として設立されました。5年目を迎えた2011年、「公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団」への移行申請を行い、9月27日付けにて内閣総理大臣より認定通知を受け、新たな一歩を踏み出しました。

設立以来、次世代を担う青少年の育成と彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成を目的として、「環境教育」「奨学支援」「スポーツ教育」の3つの事業を継続して実施しています。

また、2011年3月11日に発生した東日本大震災によって甚大な被害を受けられました被災地域の復興支援のため、ザ コカ・コーラ カンパニーをはじめとして、国内外のコカ・コーラシステム社員、及び一般の方々からの寄付金をもとに、「コカ・コーラ復興支援基金」を設立し、財団の活動理念に基づき、さまざまな復興支援事業を継続して行っております。

私ども「コカ・コーラ教育・環境財団」は、社会の変化・価値の変化に即した事業を企画・提供することにより、これからも国際社会が求める青少年の育成と彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成に、貢献してまいりたいと考えております。

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

理事長 **末吉 紀雄**



財団事業活動概要



2013年度活動一覧

2013年

- 4月1日 | 奨学支援事業 2013年度奨学生51名を採用
- 4月4日 | 「第20回コカ・コーラ環境教育賞」の募集開始
- 5月 | 「い・ろ・は・す 地元の水 応援プロジェクト」前期助成を全国47都道府県に財団支部と連携し実施
- 6月28日 | 「第20回コカ・コーラ環境教育賞」の優秀賞15団体を決定
- 7月3日 | 「コカ・コーラファンデー@コカ・コーラ環境ハウス」を開催
- 7月中旬 | 奨学支援事業 各地の教育委員会に奨学生募集ポスター及び案内を送付
- 7月21日～8月8日 | コカ・コーラ復興支援基金「TOMODACHI サマー2013 コカ・コーラホームステイ研修プログラム」(高校生119名)を実施
- 8月8日～10日 | 「第20回コカ・コーラ環境教育賞」の最終選考会及び表彰式式典「コカ・コーラ環境フォーラム」をコカ・コーラ環境ハウスにて開催。大賞団体を決定
- 8月11日～17日 | 「ふくしまキッズ栗山サマーキャンプ」(実行委員会主催:松原由典実行委員長)をコカ・コーラ環境ハウスに招聘
- 8月24日～26日 | 「アウトオブキッサニア」をコカ・コーラ環境ハウスと北海道コカ・コーラボトリング札幌工場にて実施
- 9月2日 | 奨学支援事業 奨学生の応募開始
- 9月15日～16日 | コカ・コーラ復興支援基金「コカ・コーラプレゼンツ ヤングアメリカンズ東北ツアー2013」を宮城県仙台市にて開催。順次11月までに岩手・宮城・福島県内の9ヶ所で開催
- 9月30日 | 「2012年度コカ・コーラ教育・環境財団活動報告会」を東京アメリカンクラブにて実施
- 9月30日 | 「高野 進先生に学ぼう!コカ・コーラ出前かけっこ教室」を京都府京都市にて開催
順次2014年2月まで、東京、愛媛、茨城、富山、岡山、神奈川、沖縄の14校にて開催
- 11月 | 奨学支援事業 第1次(書面)選考、第2次(面接)選考を実施。奨学生予定者及び奨学生予備予定者を選定・決定
- 11月10日 | コカ・コーラ復興支援基金「TOMODACHI サマー2013 コカ・コーラホームステイ研修プログラム 活動報告会 in 宮城」を開催
- 11月23日 | コカ・コーラ復興支援基金「TOMODACHI サマー2013 コカ・コーラホームステイ研修プログラム 活動報告会 in 岩手」を開催
- 12月8日 | コカ・コーラ復興支援基金「TOMODACHI サマー2013 コカ・コーラホームステイ研修プログラム 活動報告会 in 福島」を開催

2014年

- 1月 | 「い・ろ・は・す 地元の水 応援プロジェクト」後期助成を全国47都道府県に財団支部と連携し実施
- 1月25日～26日 | 「コカ・コーラかけっこクリニック・
日本ランニング振興機構(JRPO)認定ジュニアランニング指導員講習会」を北海道札幌市で開催
- 2月4日 | コカ・コーラ復興支援基金「TOMODACHI サマー2014 コカ・コーラホームステイ研修プログラム」の募集を開始(～3月14日)
- 2月17日 | コカ・コーラ復興支援基金「公立小・中学校へのエコ支援事業」第3期助成対象校の応募受付を開始(～3月31日)
- 2月17日～20日 | 東海大学「環境保全演習」(コカ・コーラ環境ハウスにて実施)を助成
- 2月15日～23日 | コカ・コーラ復興支援基金「TOMODACHI サマー2014 コカ・コーラホームステイ研修プログラム」の説明会を岩手・宮城・福島県内の6ヶ所で実施
- 3月22日 | 「こどもエコクラブ全国フェスティバル2014」(日本環境協会主催、早稲田大学)にて
コカ・コーラ環境ハウスの広報活動を実施
- 3月24日～26日 | 「コカ・コーラレッツエンジョイ英語で環境」をコカ・コーラ環境ハウスにて開催

コカ・コーラ環境教育賞

地域に密着した環境保全活動を支援し続けて、2013年度で20年目を迎えました。

コカ・コーラ環境教育賞は、1994年の賞設立から20回目を数えました。これまでの総推薦件数は1,800以上の団体・個人におよび、環境ボランティア活動の助成・支援を通じた環境教育・環境保全活動の促進を目的として、国内の環境教育分野の推進に貢献しています。

同賞は、2009年（第16回）より、小・中学生とその指導者を対象として、地域社会に根ざした環境教育・環境保全活動実績を顕彰する「活動表彰部門」と、高校生及び大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を評価し、具現化のための支援をする「次世代支援部門」の2部門で実施しています。

2013年度は、「大学ネットワーク事業」などで培った大学生と「環境教育賞」活動を連携し、環境教育賞選考会、環境フォーラムなどにご協力いただき、環境教育事業の一層の充実を図っています。



学びが地域に広がり、活動の質も向上していることを実感。
今後も、ともに育みあう関係性を。

コカ・コーラ環境教育賞の選考委員長として、20年間日本各地で展開されている地域の環境保全活動に触れてみると、自然と人のかかわりから生み出された水と自然の循環が織りなす文化の多様性と持続性、その多様性がもたらす学びを深める可能性に感動を覚えます。当初は先駆的な地域の会の受賞が大半を占めていましたが、学校に総合学習の時間が導入され、学校での学びが地域に広がり、地域と学校の協働活動の応募が増え、応募してきた活動の質が上がってきていることを実感します。特に、次世代支援部門が設置された第16回からの高校生の地域の持続性を視野に入れた取り組みは、地域活性化のモデルとしても将来的に社会や環境への貢献が期待できる活動で、未来への責任とビジョンを共有し、未来への物語を紡ぎだす確かな力を発揮しています。その後、受賞した地域ではNPOが設立されるなど同賞は社会への貢献へ大きく寄与しており、かかわった者としては膨大な喜びと幸せに満たされています。今後とも企業の協同・協働による、ともに育みあう関係性が広がることを期待しています。



コカ・コーラ教育・環境財団理事
東京学芸大学名誉教授
小澤 紀美子氏

コカ・コーラ環境教育賞の第20回を記念して
2つのイベントを行いました。

8月8日～10日、「第20回コカ・コーラ環境教育賞」の最終選考会及び表彰式典が行われた「コカ・コーラ環境フォーラム」において、ノミネート団体が北海道コカ・コーラボトリング札幌工場の水源である白旗山で涵養のための植樹活動に参加しました。また、コカ・コーラ環境ハウスがある栗山町と札幌工場の地元清田区の住民をお招きし、「水を守り続けるために私たちにできること」と題してパネルディスカッションを行いました。

パネラーには北海道大学大学院地球環境科学研究院 根岸淳二郎准教授、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団 小澤紀美子理事、そして日本コカ・コーラ株式会社技術・サプライチェーン本部柴田充を迎え、参加者に世界や日本の水事情、そしてコカ・コーラの「2020年までに、製品と同量の水を自然に還元する」取り組みなどを紹介しながら、ひとりひとりにできることを考えてもらい、発表をしていただきました。



第20回コカ・コーラ環境教育賞は応募155団体から選出。

書類選考、最終選考会を経て、活動表彰部門は「白保魚湧く海保全協議会（沖縄県石垣市）」、次世代支援部門は「北海道札幌旭丘高等学校生物部（北海道札幌市）」が大賞を受賞しました。

募集内容

活動表彰部門

小・中学生及び指導者の活動を表彰

コカ・コーラ環境教育賞「活動表彰部門」は、環境教育・環境保全活動を促進することを目的に、小・中学生を対象にした地域社会の環境教育に関する活動が顕著な個人・団体を称え、表彰します。

表彰内容

大賞50万円×1組 優秀賞10万円×9組

選考基準

1. 活動実績…これまで行ってきた具体的な活動内容
2. 地域密着…地域社会との連携または地域社会への貢献
3. 組織…指導者の教育方法及び小・中学生の主体的な関わり
4. 継続性…活動年数及び活動頻度
5. 発展性…活動を通じた子どもたちへの成長及び今後の成長の期待
6. 情報発信…外部への積極的な情報発信（活動の共有）

次世代支援部門

高校生及び大学生による企画を支援

コカ・コーラ環境教育賞「次世代支援部門」は、高校生及び大学生による、環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を具現化することを目的とし、支援を行います。また、「次世代支援部門」は、将来的に社会の環境教育に役立つことを目指します。

支援内容

大賞100万円×1組 優秀賞30万円×4組

選考基準

1. 企画性…独自性があり、他の企画と比べて目新しさを感じさせるもの
2. 実現性…スケジュールや予算など、企画を実現する可能性が高いもの
3. 公益性…将来的に社会に貢献できる要素を含んでいるもの
4. 主体性…応募者である高校生や大学生が主体となっている企画であるもの
5. 汎用性…社会において幅広く活用性があるもの

活動スケジュール

4月 1日 募集開始

「活動表彰部門」「次世代支援部門」の募集を5月31日まで行いました。

6月28日 優秀賞15団体を決定

155団体（活動表彰部門108団体、次世代支援部門47団体）の応募があり、その中から書類選考を経て15団体（活動表彰部門10団体、次世代支援部門5団体）を選出しました。

8月10日 最終選考会及び表彰式

15団体がプレゼンテーションを実施。
例年にない接戦の末、大賞及び優秀賞団体を選出しました。

会 場：雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス
主 催：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
協 力：読売新聞社
後 援：文部科学省、環境省



発表



表彰



集合写真

第20回コカ・コーラ環境教育賞

大賞受賞団体の紹介

活動表彰部門

白保魚湧く海保全協議会

活動地域：沖縄県石垣市

代表者：上村 真仁 氏

主な活動

サンゴ礁の保全と、環境に関する体験学習

サンゴ礁を先祖から受け継いだ財産と位置付け、地域住民が協力し、その保全と活用による村づくりを進めている。学校、地域住民、環境団体、行政が連携し、次世代を担う小・中学校に対して、サンゴ礁体験、環境保全活動などの体験学習を実施。



受賞の言葉

活動の継続性や地域とのつながり、組織的な活動が評価されたと感じ、自分たちの活動が認められたという実感がわきました。白保という集落で、さまざまな立場の人がひとつになり、サンゴ礁を守っていかうという取り組みを通じて、大人と子どもとの関わりや郷土愛が生まれ、活動が広がりました。今回の受賞によって、さらに自信を得ました。今後は今回受けた刺激や体験を仲間や後輩に伝えていきたいと思っています。



次世代支援部門

北海道札幌旭丘高等学校生物部

活動地域：北海道札幌市

代表者：綿路 昌史 氏 / 内田 葉子 氏

主な活動

トンボ相の研究による湿原の保全及び自然保護活動

石狩湿原の再生を目指し、トンボ相を湿地の生物多様性の指標とすることを考案し、実用化の可能性が認められた。今後はトンボの生息範囲を調査し、湿原の保全などに役立てる。また、地元の自然保護団体とともに調査地の観察会を企画し、自らガイド役となって活動。



受賞の言葉

月に3回、朝10時から4時間かけて生態調査を行ってきましたが、トンボを追いかけていて沼に落ちるなど、大変な思いをしたので受賞できてとてもうれしいです。苦勞の甲斐あって、この定量分析により、多様性の変化に関する仮説が実証できました。今後はこの活動を全国に広げたいと思います。それによって、それぞれの地域の周辺環境を知り、各地の湿地整備などに役立ててほしいと思います。



第20回コカ・コーラ環境教育賞

優秀賞受賞団体の紹介

活動表彰部門

北海道栗山町立継立中学校

活動地域:北海道夕張郡
代表者:中野孝幸氏

主な活動内容

柏の木に関する
自然体験学習を中心に活動

柏の木を生態学的側面と化学的側面から学ぶ自然体験学習を実施。アイヌ文化に関する学習などにも取り組む。



豊田市立土橋小学校

活動地域:愛知県豊田市
代表者:坪井富士男氏/大橋八千代氏

主な活動内容

環境教育を1~6年まで
学年ごとに展開

「持続可能な開発のための教育」の考え方を取り入れた環境教育を展開。6年間の学びは保護者や地域住民にも伝える。



まきのはら水辺の楽校

活動地域:静岡県牧之原市
代表者:鈴木康之氏

主な活動内容

山から海まで水に関わる
自然体験学習の場を提供

水域植物である稲を題材に土づくりから収穫までを行い、水源の保持・保護を図る。小学1年から高校3年までが対象。



谷津干潟ジュニアレンジャー

活動地域:千葉県習志野市
代表者:星野七奈氏

主な活動内容

谷津干潟自然観察センター
の活動を支援

地域にある干潟の重要性を学び、保全活動を実施。交流活動を通じて人々のつながりを醸成することにも貢献。



学校法人 清風学園 中学生物部

活動地域:大阪府大阪市
代表者:池永明史氏

主な活動内容

ニッポンバラタナゴを守る
“どび流し”に着目

池の浄化を行う伝統的な“どび流し”を定期的に行い、保護池での調査を実施。絶滅危惧種ニッポンバラタナゴの育成を図る。



草津町立草津中学校

活動地域:群馬県吾妻郡
代表者:柴崎俊哉氏

主な活動内容

コマクサの群落を
復元させる活動などを実施

自然公園財団や森林管理署などとの協力により、進んでごみを拾うなど環境美化への意識も高まっている。



鳥取県東伯郡琴浦町立赤碕中学校科学部

活動地域:鳥取県東伯郡
代表者:更田暢宏氏

主な活動内容

日本海赤碕海岸の
環境保護活動を展開

学校近くの海岸に生息するスナガコを環境指数生物として捉え、その生態調査を通じて海岸の環境保護に取り組む。



港区立青山小学校

活動地域:東京都港区
代表者:竹村郷氏/池田哲之輔氏

主な活動内容

小学校屋上を利用した
里山活動の充実

無農薬有機栽培農業の実習や江戸の伝統野菜の研究を行ったほか、地域の方と交流し、野菜の収穫や販売などを実施。



阿蘇市立坂梨小学校

活動地域:熊本県阿蘇市
代表者:森川聖旨氏

主な活動内容

阿蘇の大自然に触れる
「草原環境学習」を実施

野焼き体験や野草園、あか牛とのふれあい、宿泊学習など、阿蘇の草原を対象とした体験学習に取り組んでいる。



次世代支援部門

栃木農業高等学校 麻の郷活性化班

活動地域:栃木県栃木市
代表者:小森芳次氏

主な活動内容

日本古来の麻を利用して
村おこしに貢献

高齢化などに悩む集落に対し、山村の河川保護活動、麻を生かしたエコ素材製品の開発、土壁の復活などに取り組む。



岐阜県立加茂農林高等学校 林業工学科 環境班

活動地域:岐阜県美濃加茂市
代表者:大坪信弘氏

主な活動内容

地域に多い休耕田を活用し
同時に養蜂を指導

休耕田を果樹農家に貸し出し、同時にミツバチ群を無償で譲渡することで養蜂を指導。地元の小学生に出前授業なども行う。



静岡県立富岳館高等学校 キノコ研究班

活動地域:静岡県富士宮市
代表者:望月基希氏

主な活動内容

富士山の緑化を目指し
土壌改良資材を製作

条件が悪い土地でも樹木の生育率を高める物質を天然のキノコ土壌から抽出。地元の廃材と混合したリサイクル土壌改良資材を製作。



美らくいな(国立沖縄工業高等専門学校)

活動地域:沖縄県名護市
代表者:蔵屋英介氏

主な活動内容

絶滅危惧種であるヤンバルクイナの
生態調査を実施

NPO法人や大学教員と連携し調査研究を行い、音環境の重要性を再認識。今後は地域社会と保護対策などを行っていく。



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

次世代を担う青少年の育成の場として、 体験型の環境教育プログラムを実施しています。

北海道夕張郡栗山町の歴史ある廃校を宿泊可能な施設として再生した「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、2010年4月にグランドオープンしました。「自然体験が少ない」「仲間と交流する機会が少ない」という課題が社会問題として顕在化していることを背景に、全国の青少年が実体験を通じて環境について学ぶことができる「新しいフィールドの創設」を目的とし、栗山町の豊かな自然の中で体験学習や仲間との交流を通じて環境を学べる施設として活用されています。

本施設は、北海道夕張郡栗山町、地元のNPO法人雨煙別学校と公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団とが連携して運営し、教育の機会を提供しています。自然環境や農業環境を活かした体験型の環境教育プログラムを構築・展開し、全国の次世代を担う青少年の育成の場とすることを目指します。

2013年度は、年間を通じて約3,500名が環境体験学習にご参加いただき、オープン以来、約2万人に近い方々が、日本全国のみならず、世界中からご参加いただきました。



これからの地域社会のサステナビリティに重要なこと

栗山町長 樫原 紀昭氏

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団のご支援を受け、環境教育を行う施設として再生した「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、栗山町の子どもたちをはじめ町民も数多く参加する貴重な体験の場です。町民、企業、行政が連携し、それぞれの特性を活かして多様な町づくりができることこそ、これからの地域社会のサステナビリティにとって重要なこととなっています。



子どもたちには伝えあう力・関わりあう力を

NPO法人雨煙別学校 松原 由典理事長

「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」では、訪問していただいた方々に、栗山町の豊かな自然環境の中で、身近な生き物の暮らし、里山の保全活動などの体験学習を通じて、自然の不思議を感じたり、人と自然の共生について考えるきっかけづくりの時間となることを望んでいます。栗山町の子どもたちには、この施設において、ふるさと栗山のことを学びながら、地域の人、日本全国、世界中からの来訪者の方々と豊かなコミュニケーションを通じて、「伝えあう力・関わりあう力」を養っていただきたいと望んでおります。



廃校活用のモデル校として、本施設でセミナーを開催。

廃校を体験学習施設、宿泊施設として再生した「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」。文部科学省が立ち上げた「～未来につなごう～『みんなの廃校』プロジェクト」の活用事例でも紹介されている本施設において、10月17日、「2013全国廃校活用セミナー」が開催されました(主催：一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構)。廃校活用を実践、検討している方々のための交流の場として、10校目の開催になります。



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウスを舞台にした主な活動

ここでの学習や体験から得たものを、参加者はそれぞれの地域に持ち帰って新しい活動の芽へと開花させます。
本施設は、青少年の人的な成長と“心”を育て、地域社会の活性化と成長に貢献する、いわば“発信の場所”となっています。

2013年度も多くの学習や体験が、各地域に還元・発信されました。

- 2013年 7月 「コカ・コーラファンデー@コカ・コーラ環境ハウス」を開催。全肢連(一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会)を通じて、北海道内、千歳、札幌、帯広から、総勢80名の会員とボランティアスタッフが集合。間伐材による環境体験学習や木漏れ日あふれるテラスでのバーベキューを実施。
- 8月 「第20回コカ・コーラ環境教育賞授賞式」「コカ・コーラ環境フォーラム」も同時開催。環境教育賞受賞者と指導者、地元栗山町、札幌市内の一般参加者を対象に、「水への取り組み」をテーマにパネルディスカッションも実施。
- 「ふくしまキッズ栗山サマーキャンプ」(実行委員会主催:松原由典実行委員長)を支援。東日本大震災が発生した2011年より、NPO法人ネオス、北海道コカ・コーラボトリングと連携した活動を継続して実施。福島県の子どもたち40名に、北海道の大自然の中での体験学習を提供。
- 「アウトオブキザニア コカ・コーラ 水への取り組み」を開催。
キザニア(子どもたちのためのお仕事タウン)の小・中学生を対象に、北海道コカ・コーラボトリング札幌工場での職業体験を行うとともに、コカ・コーラ環境ハウスでは、ハサンベツ里山で環境体験学習を実施。
- 10月 「2013全国廃校活用セミナー」(主催:一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構)を開催。全国各地から参加者が集合。
- 2014年 2月 東海大学「環境保全演習」を実施。栗山町教育委員会、NPO法人雨煙別学校が連携し、栗山町での農業、環境体験学習を通じて「コカ・コーラ環境クイズ@栗山」を制作、実施。
- 3月 「こどもエコクラブ全国フェスティバル2014」(主催:日本環境協会)早稲田大学西早稲田キャンパス理工学術院(東京都新宿区)において広報活動を実施。NPO法人雨煙別学校が環境体験学習の実践や映像にて活動を紹介。
- 「コカ・コーラレッツエンジョイ英語で環境」を開催。栗山町教育委員会、NPO法人雨煙別学校、北海道コカ・コーラボトリングと連携し、東京近郊の大学生(日本学生協会基金に所属)と地元栗山町の小学生“くりやまキッズ”40名及び栗山からオーストラリアにサマースクールに参加した中・高校生“ジェット”10名、総勢50名以上による英語を使った研修を実施。
栗山町紹介、コカ・コーラ環境ハウス紹介、工場見学クイズなどのコミュニケーションツールを日本語と英語で開発、作成。



コカ・コーラファンデー@コカ・コーラ環境ハウス



ふくしまキッズ栗山サマーキャンプ



コカ・コーラレッツエンジョイ英語で環境



東海大学「環境保全演習」



ふくしまキッズ栗山サマーキャンプ



コカ・コーラレッツエンジョイ英語で環境

栗山町の次世代を担う青少年が世界中の方と交流する場 栗山町教育委員会 名内 隆氏

栗山町が「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」を拠点に、豊かな自然環境を活用した自然体験プログラムを多くの小・中学校で行えることは、学力の向上や深化につながるばかりでなく、郷土愛を育むにも大変有意義なことです。次世代を担う栗山の子どもたちがこの施設での活動を通じて、全国各地、世界中の方々と交流する機会を持ち、国際社会で活躍する人材の育成を目指します。



かけっこを通じて子どもたちの心と体を育てる、2つのプログラムを提供しています。

本事業では、子どもの基礎体力や運動能力の低下に対する取り組みとして、2008年から陸上400m走日本記録保持者・高野進先生の指導のもと、高野先生が理事長を務める日本ランニング振興機構(JRPO)による「コカ・コーラかけっこクリニック」と「コカ・コーラ出前かけっこ教室」を実施しています。

高野先生インタビュー

コカ・コーラ教育・環境財団と取り組んでいただいている「かけっこクリニック」と「出前かけっこ教室」。

高野先生に、2つのプログラムについてお話を伺いました。

なぜ“かけっこ”なのですか？

走ることは誰もが習得することができる技術です。クリニック、出前かけっこ教室を通じて、正しい走り方を伝えることを目指します。クリニックでは、かけっこが好きな子どもたちが集まるので、より速く走るための指導を行い、また、正しい走り方を伝授することができる指導員の育成も行います。出前かけっこ教室では、学校教育の現場の先生方と意見交換をしながら、走ることが苦手な子どもたちにも、走ることは楽しいと感ぜてもらえるプログラムを展開しました。速さだけでなく、走りの技術を身につけることで、身体を動かすことが好きになり、生涯にわたって健やかに過ごすことができるのです。

歩くのではなく、走ることが大切なのはなぜですか？

歩くというのは無意識でできる動きです。ところが、走るためには、まず、走ろうという意志が必要です。体を一回宙に浮かして、ちょうどいいところに接地して、また次のジャンプに備えるということの繰り返しなので、実は、ものすごく脳を使います。極端に言えば、走っているうちは頭がはっきりしているんです。だから、走ることが文化になれば、高齢化社会の問題の何か一端は改善されるのではないかと考えて活動しています。

どうしたら、先生が目指されている「ちょっとそこまで走ろう」という感覚が身につくでしょうか？

子どもたちには、自分に合ったいい走り方、最適な走り方を見つけてほしいと思っています。そうすれば、動けるようになるし、動けば自然と体力がつく。太った子どもでも、やせていて筋力がない子どもでも、気持ちよく、きれいな走り方を目標にしてやれば、走っていて気持ちいいという瞬間が見つかるわけです。小学生のうちからそういったことがわかると、ある選手はトップの選手になれるし、そうでなくてもずっと運動を続けていってくれればいいと思います。

「出前かけっこ教室」では、小学校の先生方との座談会も行っていますね

出前授業の場合は、研究授業の要素があると思います。現場の先生方にも走り方の指導方法を身につけていただき、今後の授業に活かしていただきたいと思います。

→ 全インタビューは当財団Webにて公開



高野 進 氏

1961年5月21日生まれ 静岡県富士宮市出身
東海大学体育学部 教授
特定非営利活動法人 日本ランニング振興機構 理事長
東海大学陸上競技部 監督
日本スプリント学会会長
400m走日本記録保持者(44秒78)

ロサンゼルス・ソウル・バルセロナのオリンピック3大会にわたり、陸上400m走の日本代表選手として出場。バルセロナ大会では日本人として60年ぶりに決勝進出を果たす。現在、大学において、走ることの奥深さや素晴らしさを教えるとともに、豊富な経験と研究成果を生かした独自のランニング理論やトレーニング方法を確立している。日本陸上界全般の競技力を向上させるため、日本陸連強化委員長として国際競技会で活躍する選手の育成に努めている。



「高野 進先生に学ぼう!コカ・コーラ “かけっこ”ステップアップドリル」を提供

ウェブサイトの閲覧・教材のダウンロードはこちらから

コカ・コーラ ステップアップドリル

検索 

<http://www.cocacola-zaidan.jp/activity/sprint-academy/stepup/>